

幼児教育学科における音楽理論の授業についての一考察 ～アンケート調査および学生の感想を参考に～

兎 東 淑 美
Uzuka Yoshimi

要旨

本研究は、幼児教育学科での「音楽理論」の授業を通して、教科の持つ特性やそこから見えてくる学生の姿より、授業の研究を行い、学生の個人差（意欲のある学生・経験不足による基礎力の低い学生）を含めた中で、幼稚園や保育園で、子どもたちの最初の先生となる学生が、少しでも感性豊かな人として育って欲しいと願い、そこに着目して、授業ごとの学生の感想やアンケートから変化して行く姿を追った。

キーワード 音楽理論・学習意欲・調査・音楽の力・豊かな感性

I. はじめに

音楽理論の、最初の学びを考えてみると小学校の頃から始まるが、それを系統的に理論として学ぶのは大学生になってからである。本学の音楽理論では、教科書に「最新学生の音楽通論」供田武嘉津著（音楽之友社発行）を使用している。専門的な教科書も含め色々試みたが、幼児教育学科の学生には音楽の理論的な面を深く学ぶだけでなく、広く浅く音楽のすべての分野が書かれている、この教科書が適していると感じている。本書は大きく分けると5章からなり、第1章・楽典の基礎知識、第2章・創作の基礎知識、第3章・演奏に関する知識、第4章・有名な作曲家とその作品、第5章・音楽の歴史、となっている。

学生は1年前期で受講する。幼稚園教諭必修科目で15回の授業がある。理論的な授業は、昔も今も敬遠されがちな科目である。多分学生達の中には教科書を開いて「A. 難し

そうだ」と感じるタイプと「B. 又こんな事を学ぶのか」と感じるタイプがいる。その様に個人差の大きい科目である。

毎年学生に行う音楽の経験の調査では、①～④の内容の回答がある。

① ピアノ経験なし・他の楽器の経験なし・高校で音楽の授業を取らなかった。

＊個人的に音楽の経験の少ない学生である。

② ピアノ経験なし・中学・高校でブラスバンド経験あり・高校で音楽を取らなかった。

＊ブラスバンドの経験は非常に良い。

③ ピアノの経験あり・ブラスバンド経験あり・その他の楽器の経験あり・高校では音楽を取らなかった。

＊音楽が好きで力のある学生

④ ピアノの経験あり・ブラスバンドの経験あり・その他の楽器の経験あり・高校で音楽を取った。

＊音楽が好きで大変力のある学生

上記の中で①の学生は数人いる。特に入学時、授業担当者が気を付けてバックアップする必要がある学生である。

音楽関係の授業に於いては、なかなか大変で学生個人の努力が必要になる。

このような学生の授業の感想文では「楽譜が全然読めない、ト音記号やヘ音記号の意味も理解してなかった。」又「器楽の授業では思うように指も動かない。ついて行けるか不安」そんな事が書かれている時もある。当初は落ち込む学生もいる。しかし、その中で努力して課題が理解出来たり、ピアノが上手く弾けたりする時に、自分の上達を自覚し、同時に学ぶ喜びを知る経験をする。それが次へのステップとなり前向きな姿勢が見えてくる。このようになれば安心である。

反面、中には努力を捨ててしまう学生もいる。その様な学生を見ていると、小さい頃からの成長過程の中で、学ぶ喜びを経験していないように感じる。どんな小さな課題でも出来たら、それを認め褒めることが、一人の人間としての成長や、学ぶ喜びを知る第一歩であり、一番大切な事だと感じる。

筆者は附属幼稚園で大勢の幼児たちと過ごし、色々な場面で沢山の表情と接した。幼児の中に褒められ認められた時の「喜びの眼差し」は輝いていた。そんな様子を沢山見る事があったからである。

＊何気ない遊びや制作の際、予期してなくて認められた時

＊頑張ってみたが自信のない時、

＊目を輝かせて夢中になって関わった時

数々の場面があるが、こんな時、認め・褒めることが成長へと繋がる。年齢を重ねても人間みな同じ、褒めてもらおうと嬉しいのである。幼児教育者にとって褒めることは、特に必要で大切なことである。

②③の学生は、ブラスバンドの経験から、担当した楽器の楽譜が読めるので、たとえ違った楽譜でも理解して行ける力を持っている。

④の学生は力があり、レベルの高い内容を望んでいるので、Bのように感ずる学生である。

Ⅱ．音楽理論の授業

(1) 音楽理論の授業では、教科書を中心に課題を学んで行くが、学生は難しく感じている。そこで單元ごとに復習の課題を配布し解いている。

学生は幼児教育者になる為に、音楽では沢山の曲を知り・歌い・人の前でピアノや楽器を弾く経験が必要である。それには第1番に読譜が必要である。本授業では、教科書を中心に理論を行うが、学生の力を見ると、感想文にもあるように、読譜力が不足している事が分かる。その中で音符の長さの理解も不十分で、学生の60%は理解していたが、40%は理解出来ていなかった。

(2) ソルフエージュについて

授業では最初から学生の読譜力を付けたい思いで、ソルフエージュの要素を取り入れている。内容はリズム打ち・読譜(高音部譜表・低音部譜表)等を毎時間それぞれ3～5題ずつ行っている。少しずつ読譜が出来るようになる学生の喜びが感想文に書かれている。その事は、歌にピアノに繋がっている。地味であるが、それを支えている授業であり、休まず連続して行うことが必要である。

(3) 楽曲の写譜について

学生が写譜をすることによって、更に注意深く楽譜を見るようになる。最初、学生の

提出した写譜を見ると、どんなに注意して教えていても、形だけは似ているが、線を間違えたりするト音記号やヘ音記号であることから始まり、様々の写し間違いがある。数回繰り返すと注意深く写譜をする様になる。写譜をする時は、読譜もするので非常に良い学習である。

(4) 「こどもの歌ベストテン」の分析

単元が進み、拍子・調子・楽語・曲の構成（繰り返し）等に関しては、器楽の教材で使用している「こどもの歌ベストテン」(坂東 貴余子編・ドレミ楽譜出版社)を使用して、曲ごとに分析をする。

「こどもの歌ベストテン」を使用する目的は

＊器楽の授業で使っていて身近な曲であると共に、授業との関連性もある。

＊本書の曲は実習に於いても、幼児教育者になっても必要な曲である。

その中で上記の拍子・調子・楽語・曲の構成（繰り返し）等の学びの分析は学生にとって、現場と授業の関係を意識する時であり、なぜ難しく面倒な音楽理論の授業が必要か納得出来る時でもある。

(5) 有名な作曲家とその作品の鑑賞

授業の最後の15分程を使い、曲の鑑賞を行っている。その中で簡単な音楽史と曲の解説や、演奏の形態などに触れる。学生はこの時間を大変楽しみにしていることが分かる。学生の感想は様々であるが、毎日、資格を取る為に非常に過密な授業の続く中で、落ち着いてクラシックの曲を聴くことが大変好きで、心が癒される、心が落ち着く、クラシックの曲が好きになった、等が書かれている。学生によっては睡眠の時間にもなる。授業の感想文を読む度に、学生の心の動きや純真さは、今も昔も変わらないことを感じる。

(6) 授業の感想文

毎回の授業の感想文は様々である。(平成24年度第13回目の授業より)

＊難しかった。

＊難しい……。テストが不安です。

*今日の問題は難しかったけど最後は理解出来ました。

*難しいけどしっかり理解出来ました。

*難しいけど楽しいです。

*教科書を見ても、プリントの問題を解けない時があったので、復習してきたいです。

*＜ソルフェージュ＞

拍子の取り方や、歌い方が分かった上で、上手く出来たので良かったです。

*＜鑑賞曲の感想文より＞ 15回の授業の中で14回は鑑賞を入れている。

交響詩「わが祖国」よりモルダウ（平成24年の12回目の授業）

静かな音量ですが、思っていたよりも激しい動きだと感じました。モルダウは、「歌」と「歌なし」のバージョンを少ししか聞いたことがなかったので、こういう感じであったのかと新鮮でした。鑑賞の前に話された風景を想像しながら聴くと、また楽しかったです。一つの曲の中に様々な場面(表情)があって聞いて面白かったです。私は、夜、水の妖精の所が幻想的できれいで、とても好きでした。朝が来て、有名なフレーズの部分になって行って・・・激しい・きれい・明るい・様々な変化があり、驚き感動しました。モルダウという曲が非常に好きになりました。今度、また自分で聴いてみたいと思います。

学生が短時間の間にB6版の用紙に書く感想文は、回を重ねる毎に全てではないが、文章力や想像力が豊かになっているのが分かる。

Ⅲ. おわりに

今回は「幼児教育学科における音楽理論の授業についての一考察」として、長年書きとめてきた授業の記録ノートを参考に書いてみた。又、筆者の附属幼稚園長の経験から音楽理論が幼児教育者を教育する上で、どの様に役立つかも考えてみたいと思った。これから「未来ある子どもたち」を育てる責任を持つ幼稚園教諭・保育士として必要な事、大切な事等を、授業を通して伝えて行きたい気持ちもあり、まとめてみた。

音楽理論の授業は、学生にとっては難しいと思うが、平成24年前期に行った学生の授業評価アンケート調査の中で「新たな知識や技術は得られたと思いますか」の設問に対して、授業時間中、理論は捨ててしまっているのではないかと思う態度の学生が「どちらかと言えば、そう思う4」と書いてあったのを見て、嬉しく救われた気持ちになった。その

様に答えてくれた学生は多くいた。

広く音楽全体を見た時に、音楽の持つ力は非常に大きく豊かである。多くの音楽経験によって、人は（乳幼児から高齢者まで、健常者も障害者も）元気づけられ、又癒されている。保育の中で音楽の楽しさを子どもに伝えて行くのは、保育者である。保育者を目指している学生自身が楽しいと思う音楽経験を重ね、音楽の楽しさを子どもたちに伝えていって欲しい。

学生には音楽の知識を深めると共に、それに伴う豊かな感性や、想像力を磨いて欲しいと願っている。豊かな感性の中には、人として幼児教育者としても大切な沢山な要素が含まれている。この授業を研究し更に良い授業が出来る工夫を重ねて行きたいと思う。